

学校評価(自己評価)

教育目標	児童生徒の病状、障害に応じた教育を行い、一人一人の持てる力を伸ばし、進んで社会参加できる人間を育成する。
学校経営方針	○ 児童生徒の個性に応じた質の高い教育実践の充実 ○ 児童生徒の心身の健康や人権を守る、安心・安全な教育環境の整備 ○ 学校・家庭・病院・地域が連携した学校づくりの推進 ○ 教職員が一人一人の力を発揮する、やりがいのある学校づくりの推進

重点目標(推進担当)	評価項目(各学部、分掌部で1点)	評価	次年度の改善策
○児童生徒の個性に応じた質の高い教育実践の充実 ●病弱教育についての専門性向上のための研修や授業研究の推進 ●教材の工夫や ICT 機器の活用等による分かりやすい授業の推進	【高等部】 ・新しい ICT 機器やソフトの機能に関する研修を行い、生徒の実態や授業環境に合わせて活用できるようにし、生徒の学習への意欲や理解度を高められるようにする。	B	・具体策に挙げた ICT 機器については、研修を受けられなかったものがあるようだが、個々の生徒に必要な研修を受けることができたようである。ICT 機器の使い方等については機種にこだわらずに、指導等に必要な研修を積んで活用していくという点に力を入れていきたい。
	【院内学級】 ・児童生徒が意欲的に取り組めるように、分かりやすい授業を行う。	B	・所属する児童生徒全員の情報を共有し、授業に生かすことができたが、授業改善の内容や児童生徒の変容を情報共有するまでには至らなかった。次年度は、授業改善や児童生徒の変容を情報共有できるような機会を設ける。 ・ICT 機器を積極的に活用することはできた。次年度は、目的に応じた ICT 機器の最善の活用方法について考え、活用する。
	【学習指導部】 ・小中学校、高等学校と連携し、実施可能な活動内容を検討し、交流及び共同学習の充実を図る。	B	・コロナ禍の経験を生かして、直接交流では十分に感染対策を行い、安心して活動できる手立てを講じた。状況に応じて柔軟に ICT 機器を活用し、間接交流を行うことができた。各活動を充実させることができた。 ・交流相手校でガイダンスを実施することができ、お互いに理解を深めることができた。 ・久しぶりの直接交流で、ねらいや係分担当が曖昧になってしまった。詳細に反省をまとめ、来年度に生かしていく。学校全体で共通理解を図りながら、取り組めるよう職員間の連絡を密にする。また、児童生徒の実態に合わせて活動内容を見直していく。

○児童生徒の心身の健康や人権を守る、安心・安全な教育環境の整備 ●感染症の予防と健康指導の充実 ・連携病院の感染症対策に関する 助言を踏まえた安全な環境の整備 ・児童生徒の一人一人の疾病への 配慮と指導の実践 ●防災教育の推進、安全対策の充実 ●教職員の人権意識の高揚と、児童生徒の心情に寄り添った指導の徹底	【小学部】 ・児童に対して安全を期した対応をし、教員・看護師が連携して実践する。 【中学部】 ・生徒が安全に安心して学べるように学習環境を整え、学習内容について工夫する。	B	・共通理解が図られないことや対応がはっきりしない点があったので、安全を期した対応について、緊急時対応訓練等を実施し、課題点や疑問点などを解決していく。 ・情報共有シートについては、形式の見直しを検討していく。 ・学部間、医ケア室との情報共有、連携を図っていく。 ・学部間の取り組みを、学校全体で共有したり、緊急時の対応に学校全体で取り組めたりする体制がとれるようにする。(保護者対応含む) ・次年度は、生徒数の増加や医療上の実態等により、個に応じた学習環境の整備がより必要となってくるため、物理的、心理的に、安全に安心して学べるような学習環境づくりについて、取組を継続していきたい。
	【おおり分教室】 ・分教室教員の安全面や衛生面への意識を高め、児童生徒が安全に学習できる学習環境の整備に努める。	A	・感染制御部や医療センターの協力を得て、教員向けの感染症対応、事故防止に関する研修を実施して、教員の意識を高めることにつながった。 ・チェック表を活用した教室環境の整備を行うことができた。 ・一方で、病棟から衛生管理や教材の扱い等で指導を受けたこともあるので、引き続き教員間で共通理解を図り、さらなる安全面や衛生面への意識の向上と事故防止に努めていきたい。
	【健康安全指導部】 ・児童生徒の病状を把握し、アクションカードを用いた訓練を通して、緊急時における教職員の迅速な対応を身に付ける。	B	・児童生徒の実態に応じて、フローチャートやアクションカードの検討、作成をすることができた。小学部はアクションカードを使用せずに、教員の動きを話し合い、確認していたが、学校看護師に伝わっていなかった反省を踏まえ、対応の仕方について学校看護師と教員の双方で共通理解を図る。また、出授業の教員に対しても持ち出し物品の他、留意点等をさらに周知していく。今後も各学部ごとに緊急時を想定した訓練の実施や見直しを適時行っていく。

○学校・家庭・病院・地域が連携した学校づくりの推進 ●関係機関と連携した取り組みの充実と積極的な発信 ・個別の教育支援計画等の活用による関係者間の連携の推進 ・積極的なホームページの発信 ・地域との連携の推進	【渉外部】・より参加しやすいPTA活動の内容や方法を工夫しながら行う。	A	・校外研修は実施しなかったが、校内研修の内容を工夫し、昼食会を含め、外部講師を招いて「苔テラリウム作り」を実施した。参加者も多く、楽しく活動しながら親睦を図ることができていた。・奉仕活動では、暑さ対策などを考慮して、時間や内容を変更して実施した。・保護者アンケートを実施し、ホームページの閲覧について聞いたところ、17名中12名が見たことがあるとの回答だった。・次年度も引き続き、参加しやすい内容や方法を検討していく。
	【進路・卒後支援部】 ・進路実現に向けて主体的に取り組めるよう進路情報を提供する。	A	・校内掲示板、進路情報コーナー、進路だより、ホームページ等、工夫しながら、様々な方法で進路情報の提供を行うことができた。特に進路情報コーナーでは就労と進学のコナーを分けて設置したり、地域別やサービス別にファイルを整理したりして情報を見やすくした。 ・高等部職員向けに進路指導の手引きを作成することができた。提出する書類と時期が分かりやすいように一覧にしたり、福祉サービスの利用の流れを簡単にまとめたりした。
	【支援部】 ・就学や転入出業務を円滑に行うため、関係機関や校内各学部との連携を図る。	A	・市町教育委員会や各学部と連携を図りながら円滑に実施できた。次年度に向けて、参加者が時間的余裕をもって就学先を考慮できるように、期日を調整する。 ・就学相談にあたる職員には事前に情報を共有し共通理解を図る。 ・分教室では今後も各機関と密に連携を図りながら進めていく。 ・分教室の在籍数が多く入院高校生用の部屋の確保が難しい。継続して要望したい。

○教職員が一人一人の力を発揮する、やりがいのある学校づくりの推進 ●一人一人の教職員が力を発揮し、相互に支え合える学校づくり ・教職員の連携・協働体制の確立 ・互いに学び合い、意見交換できる - 環境、風土の醸成	【教務部】 ・統合型校務支援システムへ円滑に移行するために、活用方法を習得し、推進していく。	B ・出席簿や指導要録については、1 学期終わりから夏休みにかけての、教務部内の研修や教務部による学部ごとの研修などで、日常的に使用し活用することができた。 ・今年度は掲示板でマニュアルを周知することが多かったが、掲示板の添付資料欄にたくさんのファイルがあると探しにくかった。活用しやすくするために、今後、マニュアルファイルを各職員室に配置したり、職員用データの中にショートカットを作成したりする必要がある。 ・教務部内で、学籍・教科書・ICT と係がまたがっているため、校務の負担が大きい教員もいたが、協力し合って校務を遂行できた。
--	---	--

今後の対応について

学校評価委員会、学校関係者評価委員会において今年度の取組を踏まえた今後の対応について協議しました。保護者アンケートの結果に関する内容については以下のように考え、対応することとしました。

(1)安心・安全な教育環境について、病弱教育を担う本校として、感染症対策については引き続き十分な対応が求められています。また、災害対策や事故の未然防止のため、危機管理の意識を更に高める必要があります。避難訓練や安全指導等、自分の身を守るための系統的な指導に努め、安心・安全な教育環境作りを推進していきます。

(2)ICT を活用した学習指導や遠隔授業等、引き続き教員の実践的な研修や情報共有の機会を確保しながら、ホームページ等の情報発信についても更に取組を充実させ、本校の教育活動の理解に向けて、十分に発信できるよう努めていきます。

(3)ICT の活用については、取り扱う機会や各自が目標とする技術の個人差から回答に幅がありますが、今後も、教員一人一人が意欲的にスキルを身に付け、個に応じた教育に向け積極的に活用していきます。